

7 学力向上プランの中間評価及び今後の取組

	取 組 内 容
〈視点1〉 授業づくり	<p>【成果と課題】</p> <p>○教務部を中心に適正な進捗管理に努め、「学びの量」を確保した。</p> <p>○学力向上推進部を中心に、「学びの質」を高めるために校内研修の充実に努め、教員間の授業交流を通して授業改善に向けた取組が進められた。</p> <p>○加配教員を活用して、生徒一人一人のニーズに応じた多様な学びに対応し、基礎的・基本的な学習内容の定着に努めた。</p> <p>●学校で設定した目標値に若干ではあるが下回り、基礎的・基本的な学習内容の定着に課題を抱えている生徒が多くいる。</p> <p>●小中連携に向けた道筋はつくられたものの、教職員間での授業参観・交流にまでは至らなかった。</p>
	<p>【今後の取組】</p> <p>① 引き続き教務部を中心に、授業時数及び授業進度の定期的な確認と修正を行い、「学びの量」の確保に努める。</p> <p>② 単元および本時の目標（ねらい）を明確にし、「まとめ」や「振り返り」をする場面を確保することで、学習内容の定着を図る。</p> <p>③ 学力向上推進部を中心に、「学びの質」を高めるために充実した校内研修を進め、教師間の積極的な授業交流を通して授業改善を図る。</p> <p>④ 習熟度別少人数指導（数学・英語）やTTにおける授業方法について、一人ひとりのニーズに応じた多様な指導方法の工夫改善を図る。</p> <p>⑤ 小中連携に向けた取組を進め、一人一回は小学校の授業を参観・交流する機会を意図的に設定する。</p>
〈視点2〉 環境づくり	<p>【成果と課題】</p> <p>○各種調査の結果の分析を通して教職員間で課題を共有し、授業改善に向けた取組を進めることができた。</p> <p>○様々な学習の機会を設定することで、基礎的・基本的な学習内容の定着に課題を抱える生徒に対して効果がうかがえた。</p> <p>○学習規律の重点化と統一した指導により、落ち着いた雰囲気の下で学習を進めることができた。</p> <p>●小中連携による学びの連続の具体的な取組ができなかった。</p> <p>●困り感を抱いている生徒に対する教育相談について、学級担任および学級担任が主に行ったが、その情報共有に課題がみられた。</p>

	<p>【今後の取組】</p> <p>① 全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの結果を踏まえ、その改善に向け授業及び指導計画の見直しを行う。</p> <p>② 学習規律の重点化を図るとともに、教職員の統一した指導によって日常の学習場面で意識させることで、学習に集中して向かわせる雰囲気醸成する。</p> <p>③ 放課後学習及び長期休業中の「学習会」の充実を図る。</p> <p>④ 学級担任と教科担任が連携して教育相談の充実を図り、学びに困っている生徒への支援を行う。</p>
<p>〈視点3〉 習慣づくり</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>○各種調査結果から、家庭学習の取組に対する啓発により定着が図られていることがわかる。</p> <p>○各種調査より、全国・全道と比較すると望ましい生活習慣が定着している生徒の割合が高い。</p> <p>●生活習慣や家庭学習の取組に対する格差が、結果的に学習内容の定着の差となって現われた。</p> <hr/> <p>【今後の取組】</p> <p>① 引き続き、生活リズムチェックシートを活用して望ましい生活習慣の定着に向けた指導を行うとともに、家庭学習の「量と質」の向上を啓発する。</p> <p>② 望ましい生活・学習習慣の定着に向け、学級・学校だより等で保護者・地域に対して啓発を図るとともに、学校ホームページを活用し情報提供を行う。</p>